



第5回森林・林業セミナー

日本の森林・林業の再生をどう図るか  
九州各地から360人が参加

我が国の森林・林業再生を図り、「10年後の木材自給率50%以上」を目指すべき姿とする「森林・林業再生プラン」が平

成21年12月に農林水産省により策定され、平成22年12月には、その具体的な推進方策として「森林・林業の再生に向けた改

革の姿」がとりまとめられまし  
た。さらに、本年4月には「森林・林業再生プラン」を法制面で具体化するた  
め森林法の改正が成立するなど、平成23年は森林・林業再生のスタートの年と言われていると  
思います。

同セミナーは、これまで、低コスト育林や列状間伐、生物多様性の保全と森林の役割、木材利用の拡大などをテーマに4回開催。

5回目となる今回は、林政審議会会長として、また森林・林業基本政策検討委員会座長として「森林・林業再生プラン」の策定や実施に中心的に関わってこられた岡田秀二岩手大学農学部教授に「我が国の林政の改革と今後への期待」と題して、我が国のこれまでの森林・林業・林政の展開について歴史的な流れ、当時の施策等についての批評、現状における課題について、また、「森林・林業再生プラン」が政府の新成長戦略など政策の根幹として位置づけられていることのほか、森林・林業の再生のために市町村森林整備計画のマスタープラン化とこれに基づきつくられる森林経営計画が

意識を共有していただくため、6月30日に「日本の森林・林業の再生をどう図るか」をテーマに九州森林管理局大会議室において、「国際森林年記念 第5回九州森林・林業セミナー」を開きました。

同セミナーは、これまで、低コスト育林や列状間伐、生物多様性の保全と森林の役割、木材利用の拡大などをテーマに4回開催。

講演の後の質疑応答では参加者から寄せられた森林・林業再生プランに対するさまざまな疑問等を岡田教授に丁寧にお答えいただきました。

今回のセミナーには一般市民や行政関係者などこれまでのセミナーで、最も多い360人の参加があり、参加者からは、「講演内容が充実していて理解しやすかった。将来に向けて、何をすべきか見えたような気がした」などの声が聞かれました。

今回のセミナーには一般市民や行政関係者などこれまでのセミナーで、最も多い360人の参加があり、参加者からは、「講演内容が充実していて理解しやすかった。将来に向けて、何をすべきか見えたような気がした」などの声が聞かれました。

今回のセミナーには一般市民や行政関係者などこれまでのセミナーで、最も多い360人の参加があり、参加者からは、「講演内容が充実していて理解しやすかった。将来に向けて、何をすべきか見えたような気がした」などの声が聞かれました。

今回のセミナーには一般市民や行政関係者などこれまでのセミナーで、最も多い360人の参加があり、参加者からは、「講演内容が充実していて理解しやすかった。将来に向けて、何をすべきか見えたような気がした」などの声が聞かれました。

セミナーにおいて講演を行う岡田秀二岩手大学農学部教授と参加者

このような中、我が国や九州における森林・林業の現状、「森林・林業再生プラン」の意義やその目指すところを多くの方々にご理解いただき、森林・林業の再生に向けた

今回のセミナーには一般市民や行政関係者などこれまでのセミナーで、最も多い360人の参加があり、参加者からは、「講演内容が充実していて理解しやすかった。将来に向けて、何をすべきか見えたような気がした」などの声が聞かれました。

今回のセミナーには一般市民や行政関係者などこれまでのセミナーで、最も多い360人の参加があり、参加者からは、「講演内容が充実していて理解しやすかった。将来に向けて、何をすべきか見えたような気がした」などの声が聞かれました。

(担当)指導普及課



大分森林管理署

竹田森林事務所

首席森林官 園田 敏明

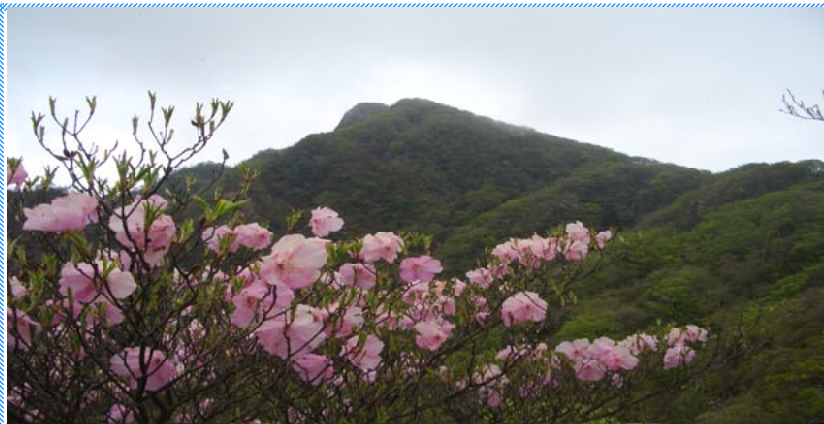
当森林事務所の南側には、大分と宮崎の県境に位置する祖母山をはじめ障子岳（1703㍎）、古祖母（1633㍎）、本谷山（1643㍎）、傾山（160

# 山岳信仰の山 「祖母山」1756・4㍎

2㍎）などの主稜が連なり、風致景観に優れているとともに、貴重な動植物の生息・生育地で、祖母傾国定公園に指定されています。

また、祖母山の宮崎県側の大

崩山周辺を含めた一帯は、「祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域」として設定され、上層木のモミ、ツガ、ブナ、ミズナラなどの原生的な森林が存在し、その下層にはギレンゲシヨ



(上) 登山道から望めるアケボノツツジと祖母山

(下) 日本百名山のひとつ祖母山山頂

祖母山は、日本百名山のひとつとされ、大分県側からは数ルート

の登山道があります。尾平から宮原、馬の背を経由するルートをお勧めします。二合目から

ウマ、ウバタケニンジン、アケボノツツジなどが生育しています。当地域は、特別天然記念物のニホンカモシカをはじめムササビ、ヤマネなどの貴重な動物が生息しています。

このコースは往復約7時間程度かかり、急峻で岩場や滑りやすいところもあります。体力と高度な知識と技術・経験を有する者と登山し、祖母山の醍醐味を味わってください。

祖母山の名は、山頂に神武天皇の祖母、豊玉姫命の祠が祀られていることに由来します。天気の良い日の山頂からは、阿蘇の山々、くじゅう連山、傾山へ連なる名峰群の眺望が堪能できます。

はモミ、ツガ、ミズナラなどの巨木が林立している中、春から初夏にかけてはアケボノツツジ、ツクシシヤクナゲ、ミツバツツジ、オオヤマレンゲなどの花々を築しめ、秋には美しい紅葉へと変わり森林浴など満喫できるおすすめスポットです。



登山道脇に咲き誇るツクシシヤクナゲ

## 九州森林フォーラム in 屋久島 150人

【屋久島森林管理署】NPO九州森林ネットワーク（理事長北里小国耕亮町長）が主催する第15回九州森林フォーラム「島の森と生きる」が屋久島町で開催され、島内外から150人が参加しました。はじめに、元森林総合研究所の藤森隆郎氏が基調講演。その後、事例報告が行われました。午後からはパネルディスカッションが行われ、パネラーとして屋久島森林管理署長木暮甲吉署長も参加。有意義なフォーラムとなりました。



パネルディスカッション参加のパネラーの皆さん＝屋久島

## 治山事業予定地で地元説明会

【鹿児島森林管理署】地元自治公民館長や鹿児島市など関係者28人が参加し、桜島地区民有林直轄治山事業地元説明会を開催。一行は平成23年度事業予定個所を視察し、治山事業の重要性・有効性について確認しました。参加者からは、「最近は大石流災害もなくなり感謝しています。住んでいる桜島の状況を別の角度から見ることができました」などの意見が寄せられ、治山事業の重要性を改めて認識させられた一日となりました。



23年度事業予定個所を視察する一行＝鹿児島

## 緑のオーナー友の会が交流会

【熊本南部森林管理署】当署管内の大畑国有林「千年の森林」

で、「緑のオーナー友の会平成



交流会へ参加された皆さん＝熊本南部

23年度交流会」が開かれ、会員ら約40人が家族連れで参加。当日は、野外料理などを堪能しながら、子供らを対象に紙芝居やビンゴゲーム、スイカ割りなどで交流を深めました。昨年は口蹄疫の影響で見送られ、2年ぶりの開催となり再会を待ち望んでおられた方も多く、来年の参加を誓い合い散会しました。

## 森林教室で体験林業

【熊本森林管理署】熊本市立川上小学校5年生の児童112

人を対象に金峰山において、森林教室を行いました。児童らは、間伐、枝打の作業班と本立て作りの体験班に分かれて実施。伐った木が倒れるのを見ると大きな歓声を上げていました。一方、体験班は本立て作りや丸太切りに汗を流し、作った本立てには職員から焼き印を入れてもらったり、切った丸太に穴を開けてもらいペン立てにしてみました。代表から、「この林業体験を機会にして、森林を大切にしていきたい。」との挨拶があり、イ



丸太切りをする児童ら＝熊本

## 地域に期待される農林高校を目指して

本校のある伊佐市は、鹿児島

ことを期待している。

県の北部に位置し、熊本県との県境にあり、農業・林業が盛んな地域である。伊佐地域の林業はヒノキの人工林の割合が大き

さて、本校森林工学科では伊佐市の所有している山林を分収

や森林組合連合会の協力で林業就業支援講習の一環として、2年生を対象に刈り払い機・チェーンソー・林業作業者の講習を受

球温暖化に注目し、木質バイオマスや間伐材の利用などについて研究が重ねられてきた。本校でも課題研究のなかで学校林の間伐材を利用して、炭焼き窯を校内に作り炭を定期的に生産したり、ログハウスや木工品を制作している。

平成22年6月には、「森林・林業の再生」が国家プロジェクトの一つとして位置づけられ、10年後の「木材自給率50%以上」を目標としている。

公共の建物への木材の利用が促進され、「伊佐ヒノキ」の需要が増える

また、鹿児島県林業労働力確保支援センター

しかし、その森林工学科は農業経営科と再編され、今年度から農林技術科・生活情報科の2学級になった。このため、林業に関する授業は農林技術科の選択コースとして位置づけられている。学科再編を機会に、資格取得や研究等とおして林業の後継者育成に努め、地域に期待される農林高校にしていきたい。



鹿児島県立伊佐農林高等学校 校長 田上 博さん

林として一部使用し、森林を管理するとともに山林実習で間伐、下払いなどを行っている。

の進路選択に大きく役立っている。林業の分野では、早くから地



を目標としている。公共の建物への木材の利用が促進され、「伊佐ヒノキ」の需要が増える

林として一部使用し、森林を管理するとともに山林実習で間伐、下払いなどを行っている。

の進路選択に大きく役立っている。林業の分野では、早くから地



千原 弘さん

私は、幼少の頃より少年期まで「山」「川」「海」「小さなせまい農地」と大自然一杯の小さな片田舎で生まれ育ちました。その関係で「地球上で人間、動植物、生物、すべてが大自然無しでは生きられない、大自然有ってはじめて生きていける」



歩道整備を行う参加者の皆さん＝大分西部

## 夏山の安全に役

【大分西部森林管理署】久住山の山開きを前に、九重の自然を守る会と共同で、登山者の安全を守るための誘導標や歩道沿いの整備を行いました。九州の屋根と呼ばれる久住連山は、登山ブームで幅広い年齢層が訪れ森林浴から本格的な登山まで受け入れる懐の深さがあり、事故も増加傾向にあります。自分の体力に合わせて安全に高原の夏を楽しんでもらいたいものです。

と云うことを実感しています。

この山を私は、木の实拾いをするなど心をいやす場として、また、家庭の燃料用材の調達の間として活用してきました。

30数年程前までは、多くの人々が生活し、直接的、間接的にも密接な関係で結ばれていたように思います。

ところが、現在の日本では燃料やエネルギー源となる石油やガスなどは輸入品に依存、木材も安い輸入材に8割も依存している現状となっています。

国産材の自給率をせめて5割までUPさせないと日本の林業は衰退し、緑の山は荒廃するばかりで、私たち国民の生活環境に



ゴミ撤去作業に参加した関係者＝宮崎北部

## 「ゴミの日」にクリーン活動

【宮崎北部森林管理署】5月30日の「ごみゼロの日」に併せ、延岡市で不法投棄防止に関する活動が開催され、不法投棄物の撤去作業が行われました。当日は加盟する関係機関や地元住民などが河川敷の清掃に汗を流しました。空き缶やビンなどたくさんさんのゴミを収集。参加者からは「ゴミを捨てるのは簡単ですが、キレイにするには、多くの人の協力が必要だと感じました」と来しました。

最後に、国産材の利用拡大、自給率向上の為に役所だけに頼るのではなく、私達国民一人一人も積極的に協力し、建設的な意見を提言し行動に移すべきで、官民一体となって国産材自給率50%UPを目指し行動しなければならぬと思います。

## モニター会議での私の感想

ました。

私は、現在「森林ボランティアアークまも」との一員として森林の植樹、下草刈などやっています。このような取り組みは、日本国内の緑の山が保たれ、引いては私たち国民全体のより良い生活と環境が保たれるものだと感じています。

次に、間伐材を利用したコピー用紙や小萩園内の歩道を間伐材の木材チップ敷にするなど、間伐材の利用拡大の取り組みがなされていることを知ることが出

(熊本県宇土市在住)

との声が聞かれました。

## 小学生が貯木土場を見学

【屋久島森林管理署】屋久島町立小瀬田小学校の1年生から4年生が、安房貯木土場などを見学しました。屋久島の林業や、伝統的な屋久杉工芸などの見学では、「ヤクスギの歴史と土理木について」腐りにくいヤクスギの特徴や、スギ人工林材との違いなどを説明すると、子どもたちはヤクスギ土埋木に触ったり、臭いを嗅いだり、スギ人工林材の円盤と比較するなど興味深く話しを聞いていました。



ヤクスギの土埋木に関心を示す児童ら＝屋久島

# 永年勤続の功績を称え

## 1級 50人と2級 15人 農林水産大臣表彰伝達

6月14日九州森林管理局2階  
大会議室において、国有林野事  
業職員定期表彰伝達式を開催。

1級精勤章（勤続30年）50人  
と2級精勤章（勤続20年）15人  
に農林水産大臣表彰の伝達を行  
いました。

氏名・所属は次のとおりです。

### 1級精勤章（勤続30年）

◇定員内職員◇・・・37人

- 宮城勇朗（計画部）
- 高村俊郎（職員厚生課）
- 山本克郎（職員厚生課）
- 溝越啓二（経理課）
- 酒井昭則（経理課）
- 興栢美喜夫（経理課）
- 峰内浩昭（計画課）
- 田中佳晴（指導普及課）
- 長瀬 直（森林整備課）
- 本田勝美（森林整備課）
- 有蘭敏行（販売課）
- 渡辺浩司（販売課）
- 赤星良治（治山課）
- 柏木正美（森林技術センター）
- 副島利博（佐賀署）
- 宮木利浩（熊本署）
- 坂田博之（熊本南部署）
- 吉田弘幸（熊本南部署）

- 大倉浩一（大分西部署）
- 廣田光春（大分西部署）
- 佐藤修治（大分署）
- 高岡勝美（宮崎北部署）
- 古閑智之（宮崎署）
- 平生陽介（宮崎署）
- 梶丸正幸（宮崎署）
- 上別府悟（都城支署）
- 中川裕司（都城支署）
- 内場 司（都城支署）
- 外山三男（宮崎南部署）
- 井 研市（宮崎南部署）
- 引地修一（宮崎南部署）

山本 正（宮崎南部署）

由谷浩一（宮崎南部署）

黒谷幸樹（北薩署）

濱田辰広（鹿児島署）

上之段斗波（大隅署）

木村 通（大隅署）

◇基幹作業職員◇・・・13人

坂本幸弘（熊本南部署）

池田健太郎（熊本南部署）

甲斐幸久（熊本南部署）

木村圭文（大分西部署）

佐々木修身（大分西部署）

吉良政敏（大分署）

美村訓宏（大分署）

寺尾 勉（宮崎南部署）

多田淳一（宮崎南部署）

小島秋雄（鹿児島署）

藤垣孝一（鹿児島署）

新原 恵（大隅署）

木場高男（大隅署）

野邊忠司（企画調整室）

古村健児（経理課）

後藤 毅（販売課）

小糸照雄（長崎署）

小園英行（熊本署）

鈴木 誠（大分西部署）

竹原敬一郎（大分西部署）

高瀬智晶（大分西部署）

白坂 進（西都児湯署）

水本利香（都城支署）

森 俊之（宮崎南部署）

金田伸也（北薩署）

花田孝文（鹿児島署）

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

紫尾山が北西の方向に見える。さつま町と出水市にまたがり、

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

紫尾山が北西の方向に見える。さつま町と出水市にまたがり、

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

紫尾山が北西の方向に見える。さつま町と出水市にまたがり、

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

紫尾山が北西の方向に見える。さつま町と出水市にまたがり、

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

紫尾山が北西の方向に見える。さつま町と出水市にまたがり、

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

紫尾山が北西の方向に見える。さつま町と出水市にまたがり、

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

紫尾山が北西の方向に見える。さつま町と出水市にまたがり、

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

紫尾山が北西の方向に見える。さつま町と出水市にまたがり、

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

紫尾山が北西の方向に見える。さつま町と出水市にまたがり、

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

紫尾山が北西の方向に見える。さつま町と出水市にまたがり、

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

紫尾山が北西の方向に見える。さつま町と出水市にまたがり、

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

紫尾山が北西の方向に見える。さつま町と出水市にまたがり、



# さつま町にて

朝は七時十分に家をでる。北薩森林管理署があるさつま町に来て二年が過ぎた。町の中心を川内川が流れ、冬は霧が立ちこめ、川内川を挟んだほろけな街並みとはのかな朝日が幻想的な風景を醸し出す。

職場まで直線で歩けば十五分だが、健康のため回り道をする。この時間は子供たちの通学時間とも重なり、行き交う子供たち

さつま町からはその勇姿がよく見え、紫尾山に対する思い入れも大きい。四十五分歩くと川内川の轟の瀨に近づく、もう職場も近い。ここには時々ヤマセミが顔を見

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

紫尾山が北西の方向に見える。さつま町と出水市にまたがり、

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

紫尾山が北西の方向に見える。さつま町と出水市にまたがり、

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

紫尾山が北西の方向に見える。さつま町と出水市にまたがり、

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

と挨拶を交わす。黄色い帽子をかぶった子供は新小学一年生で体の半分もあるようなランドセル背負っていて愛くるしい。

宮川貴之（大隅署）  
◇基幹作業職員◇・・・1人  
小城 守（宮崎南部署）

### 自然観察会に40人参加

【熊本南部森林管理署】環境省希少野生動物植物種保存推進員の乙益正隆氏を講師に迎え、熊本県五木村の大滝公園周辺国有林において「人吉・球磨自然観察会」を開きました。当日は好天に恵まれ、各方面から40人の参加がありました。参加者は、乙益氏の丁寧な説明に耳を傾けながら林道沿いの植物を観察。メ毛を探るなど植生や森林の生態などに理解を深めました。



講師から植物の特徴などについて説明を聞く参加者（熊本南部）

実践講座  
第1回公開

# 29人「葉の構造」を学ぶ

「森林のさまざまな働きや大切さ」を一般の方々に広く理解していただくため、熊本城の一角にある監物台樹木園において年5回の「実践・公開講座」を計画しています。

第1回の講座は、6月19日「葉の構造を学ぶ」と題して、一般公募により29人が参加しました。

参加者は、同樹木園内の「みどりの交流館」で、下崎哲也指導普及課課長補佐のあいさつの後、九州森林インストラクター会の安楽行雄さんから「植物の



ルーペを使い葉の構造を見る受講者のみなさん

分類や専門用語・種の不思議について」の説明を受けました。

当日は、雨となり野外観察が出来ませんでしたが、インストラクター会の皆さんが事前に採取したいろいろな木の枝を教材に、ルーペを使って葉を観察したり、インストラクターの説明に又千をどるなど熱心に聞き入っていました。

参加者からは「ユーモアを交えた説明でわかりやすく楽しく



エゴノキの花は下向きにびっしりと咲きますので、アルバムの整理には注意しましょう。下向きに咲くのは、蝶や虫をみんな歓迎しているのではなく、受粉してくれる脚力の強い虫だけを選ぶ工夫をしているのです。エゴノキの花が咲く時期に森を歩き、歩道いっぱい白米をばらまいたように花卉が散っているのびびくりします。

エゴノキの果実の皮をすりつぶして魚を捕ったとの話を聞きますが、魚が捕れたのでしょ

かった」などの意見が寄せられ、第1回の講座を終了しました。  
(担当＝指導普及課)

## 日之影小でお届け講座

【宮崎北部森林管理署】日之影町立日之影小学校3年生の児童5人を対象に、お届け講座

「森林環境教育」を行いました。最初に紙芝居「森からのおくりもの」で森林の働きや木製ハガキづくり、木の名前当てクイズなどを実施。その後、校庭にある樹木について、観察の仕方や名前、その特徴について説明しました。森林の役割やその大



熱心に説明を聞く児童ら＝宮崎北部

切さなど身近な樹木に興味を持つための学びの場となりました。

## ④6 エゴノキ (エゴノキ科)

さ4杯のエゴノキがあります。

か。毒性の強いエゴサポニンが含まれていますので魚は捕れたと思いません。

エゴノキは、枝がジクザクに伸び、冬芽が1個でなく負ぶつたように2個、3個とついていることの確認で判別できます。花が咲いた後に「猫の脚」のようなものがぶら下がっていることがあります。虫の虫嚙です。虫嚙には50頭前後の「エゴノネコノアシアブラムシ」という長い名前を持った虫がいます。和傘のロクロクに使用されたことで有名です。樹木園中央東側に高



東日本大震災から今年11日で4ヶ月がたちます。震災発生当初は被害状況の把握もままならず、混乱していた様子が思い出されます。今は混乱も収まり復興に向けての取り組みが目に見えますが、未だに行方不明者の方やその家族のことを思えばむねが痛みます▼福島第一原発の放射能漏れなど解決困難な問題もさることながら、稼働しない原発が多く、深刻な電力不足は待ったなしです▼今年「節電の夏」が本格化します。7月1日、東京電力、東北電力管内で電気事業法による電力使用制限令が発動され、企業や自治体は電力使用を減らすため、サマータイムの導入や休日操業、ある都道府県では家庭での消費電力を減らせた家庭にはポイントを与え、商品券に交換できる制度の導入を検討するなど様々な対策を行っています▼エアコンの設定温度を28℃に押さえるのは良く聞く節電対策ですが、節電が先に立ち熱中症になってしまっは大変です。こまめに水分を取り、節電対策グッズを上手く利用しながらこの夏を乗り切りたいものです。(恵)